

江津市再生可能エネルギー農山漁村活性化協議会

令和 7 年度総会議事録

1. 開催日時 令和 7 年 9 月 3 0 日（火）9：30～10：30

2. 開催場所 江津市役所 2 階会議室 2－2

3. 構成員数 出席数 9 名（出席者名簿のとおり）

4. 議 題

（1）農山漁村の活性化に関する昨年度目標の達成状況についての評価

・目標…発電量：年間 100,584 千 kWh

地域産木材を使った木質チップ使用量：83,000 トン

・実績…発電量：年間 87,997 千 kWh（達成率約 87.5%）

地域産木材を使った木質チップ使用量：79,267 トン

⇒水分換算後の使用量：82,998 トン

・（目標未達の場合）改善策…目標とする発電量の達成に向けて、設備トラブルの未然防止を目的とした修繕項目の見直しを行うとともに、商社との協議を通じてより安価な PKS 調達に努める。

（2）農山漁村の活性化に関する今年度目標について

・計画…発電量：年間 98,000 千 kWh

地域産木材を使った木質チップ使用量：83,000 トン

5. その他

・質疑応答

質問：江津市農林水産課 山本課長

R6 実績について、月ごとの発電量に偏りはあるか

回答：しまね森林発電 所長 小林

11 月、5 月は定期点検を行う月であることから稼働時間が減少するため、

必然的に発電量は減少する。加えて、突発的な設備トラブルによる修繕が発生した際も同様。

また、発電燃料の需要と木材チップの供給バランスは必ずしも一致せず、冬期の積雪による林業現場の作業効率低下や、発電所のチップ受け入れ量の限度から、大量ストックができないこともその要因となり得る。

回答：島根県素材流通協同組合 事務局長 樋谷

夏期と冬期で木材チップに含まれる水分量は異なる。水分量の多い冬期では発電効率が低下することとあわせ運送効率が低下し、コストは増加する。

一方、夏期も近年の酷暑の影響による林業現場の作業効率の低下もある。

江津市再生可能エネルギー農山漁村活性化協議会

出席者名簿

No.	関係	所属	役職
1	関係住民	松平たすけ愛協議会	谷口会長
2	原料供給者 (本会副会長)	島根県素材流通協同組合	樋谷事務局長
3	学識経験者	島根県農林水産部林業課	西調整監
4	農林漁業団体	江津市森林組合	川本組合長
5		播磨屋林業株式会社	布施業務部長
6		邑智郡森林組合	植田組合長
7	発電事業者	合同会社しまね森林発電	小林所長 佐々木副所長
8	行政(本会会長 ・事務局長)	江津市農林水産課	山本課長

当日の様子

